

日本女子大学教授

細川 幸一

エシカル(倫理的)消費という言葉の起源は定かではないが、一般的に使われるようになったのは英国で、1989年に発行された雑誌『Ethical Consumer』によ

# 概念の広がり



5

る。ボイコット(不買運動)とともに、倫理的な企業の製品を積極的に選択して買うバイコット(ボイコットの反意語としての造語)を勧めた。日本では、2014年5月30日に「日本エシカル推進協議会」が誕生しており、エシカル消費関連の活動や啓発イベントも多く見られるようになってきている。15年3月24日に消費者基本法に基づいて閣議決定された消費者基本計画においてエシカル消費の言葉が登場している。同計画では「地域の活



## 消費者基本計画に基づき調査研究

性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動(倫理的消費)」と説明されている。また「環境等に配慮した商品・サービスの選択を可能とする環境の整備や、食品やエネルギーのロスの削減などの社会的課題に配慮した消費を促進することが求められている」とし、「地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動や、開発途上国の生産者

と先進国の消費者を結び付けることで、より公正な取引を促進し、開発途上国の労働者の生活改善を目指す『フェアトレード』の取り組みにも関心が高まっている。こうした持続可能なライフスタイルへの理解を促進するため、消費者庁において、倫理的消費等に関する調査研究を実施することとされた。これを受けて、15年5月に消費者庁は「倫理的消費」調

査研究会を設置。委員は民間人28人で発足し、座長には山本良一(東京大学名誉教授)が指名された。この研究会では、エシカル消費に関する国内外の動向について委員からプレゼンテーションなどが行われた。16年6月22日には、「倫理的消費」調査研究会「中間取りまとめ〜あなたの消費が世界の未来を変える〜」が公表され、17年3月2日には最後の会合が開催され、最終報告案が審議された。この活動で、日本でも倫理的消費という概念は広まりつつある。